

片柳小学校PTA組織検討PJ検討事項の内容

1 開催日時等

- (1) 令和6年 7月 1日 (月) 17:00~18:00 【オンライン開催】
- (2) 令和6年 8月29日 (木) 17:00~18:00 【オンライン開催】
- (3) 令和6年 9月22日 (日) 16:00~18:00 【坂戸市文化施設オルモ】
- (4) 令和6年10月26日 (土) 16:00~17:30 【坂戸市文化施設オルモ】

2 前提事項（新組織検討の背景、方針共有、検討会の進め方の共有）

- (1) 強制でなく、学校活動・先生を保護者が支援することで、子供達がのびのび学ぶことができる環境を、ポジティブな気持ちで作っていきけるPTAへの創造
- (2) アンケートの3分の2が、現状ではない形でのPTA運営を希望していた。
その意向を踏まえた新組織の在り方を検討する。
ただし3分の1は現状維持を希望している事も念頭に置く。
- (3) 事業内容の棚卸、懸念事項の共有、新しい組織図と事業の検討、会則類の見直しの視点で検討していく。

3 検討内容及び質疑応答

- 新組織の目指す姿と、メリット・デメリットについて
- 運動会のボランティア募集のように、「マメール（すぐー）」や「ライン」を活用して募集するのが良いのでは。
→「すぐー」は、「アンケート機能」があるようなので、ボランティア募集の際に参加可能の有無を募って人数確認できると思います。
- 事前に（少なくとも3か月以上前）、具体的な情報共有と募集ができると良い。
→行うことはできるが、小さな行事は、子どもたちの実態と授業の進度に合わせる事ができず、子どもたちや教員に負担がかかることが予想されます。
- ボランティア参加した人へのメリットを作れないか（メリットを前面に押し出す）
→ポイント制、役得（給食の試食、エリア内で写真が撮れる等）会費免除、謝金など
→給食に関しては1か月半前ぐらいに人数を決めて、一人265円（R6. 7月現在）かかります。写真は、自分のお子さんだけであれば問題ないですが、活動をストップさせることがないようにしてもらいたいです。
- 総務委員も学期ごとにやれたら
- 自分の子どもが参加するイベントは出やすい。
- 地域の高齢者の方にもっと協力頂ければ
→地域の高齢者の方もそれぞれ働いていたり、用事があったりしてそんなに時間があるわけではなさそうです。
- 懸念事項
- 総務委員、主幹ボランティアが集まらなかつたらどうするのか。
→総務委員の立候補が出ないのは、毎年のものである。
令和7年度においては、通例通りの働きかけになる可能性があるが、立候補がでなければ、令和8年度に向けて再検討が必要となるかもしれない。
- 結局は、ボランティアを取りまとめる人が必要で、その人に負担が集中する。
→学校の学習ボランティアのとりまとめは教頭、PTA関連すべては、教務主任が現在、行っています。ボランティアのコーディネーターはそれなりの金額をお支払いしない

と引き受けてくれる人は出てこないのではないかと思います。どこの学校でもボランティアコーディネーターを発掘するのはかなり苦労しています。結局、教員がやっている学校も多いです。

- できる事はやりたい思いはあるが、得意不得意があるため躊躇する人が沢山いる。
→ボランティアの根幹である、できる時にできる範囲で行うという風土作りが重要。
- 直前に募集すると参加できる人は限られ、参加者が固定化してしまう。
→参加者が固定されても構わない。
- 何をやるのか、どのくらいの負担かが見えないと参加の一步が踏み出せない。
→まずは事業計画の見直しが重要。
- 必須の役割、活動があれば、手が上がれば実施する活動もあってよいのでは。
- 必須、任意の活動を決める上で、優先順位や懸念と対策はしっかり議論が必要。
- P T Aを抜けてしまえば、という方が増えてしまったらどうするのか。
- ボランティア役割による会費減額は、口座振替付け合わせ時に、人的ミスが発生しやすいと判断した。

■ 活動計画優先順位付け

- 片柳小学校P T Aが行っている事業活動を、「必須活動」と、「ボランティアが集まれば実施する活動」に分類分け
 - 必須活動（「必須」と「集まれば」で意見が割れたものを含む）
 - 総務委員関連
→総会開催、総会準備、会計監査、会費集金、運営委員会、総務委員会
 - 校外指導委員関連
→通学班会議→次年度通学班編成と登下校路問題の解決策検討、見守り当番管理
 - 集まれば実施（それ以外は全てこれに該当）

■ 活動計画を実行するための組織体制とその募集について

- 必須活動を実行し、それ以外のボランティア募集をかける事ができる組織体制を構築。
- 募集方法と、集まらなかった場合の対策について。
- 謝金を出す場合妥当と思われる金額について。

■ 新組織と事業計画確認

- 会長業務（活動を整理）
 - 総会 →基本電子決議 必要に応じ対面開催とする。
 - 総務委員会 →必要に応じ開催
 - 市P連の活動 →活動は行うが、片柳小の事業計画からは除外する。
※市P連の活動は主に3つだが、市から招集される活動の方が圧倒的に多い。
 - 市が開催している活動 →参加可能な範囲で対応
 - 学校運営協議会 →年4回（全ての学校に設置しなければいけないもの）
 - 地域安全会議 →桜中学区内（桜中・桜小・片柳3校）と片柳小学校区内の2種類がある。
- 副会長業務（活動を整理）
 - 入学準備会 →学校と校外ですり合わせし進めているため副会長活動から除外
 - 市P連との情報展開
 - ボランティア募集
- 幹事業務（書記と幹事を合算）
 - 事務局 →対面開催が無ければやる事は無いため活動から除外 ※必要に応じ
 - 資料作成 →書記が受け持っていた業務（入学準備会、総会、運営委員会）

※幹事としての役割を前面に押し出すか、書記としての活動を押し出すか
(PTA活動全般の総括、学校との窓口)

- 会計業務 (活動を整理)
 - 資源回収業者との折衝 →それほど業務は大きくなく、歳入が7~9万ある。
 - PTA安全互助会 →保険の説明会(オンライン可)それほど負担はない。
- 広報ボランティア・成人ボランティア業務 (活動を整理)
 - →ボランティア立候補があれば実施の役割に変更
- 校外ボランティア業務 (活動を整理)
 - ※重要度の高い役割となるため、必須の基幹ボランティアとして残す。
 - 通学路管理 →アンケートで上がってきた意見の収集。
 - アイカツ →現状の個人名での割り振りを辞め、定期的に案内する。
参加者は、参加した事を名札の後ろのQRで報告
→ 『あいつ当番表作成』と『通学路アンケート』と『通学路点検』を削除

※報告の目的

- ・危険な場所の情報共有
- ・不審者情報の情報共有
- ・市への報告

4 その他

- 組織図案の中心に校章を掲載していますが、この校章は片柳小の児童を意味しています。PTA、学校、関係団体、地域が、児童を囲んでいる構図です。PTAは縦社会という記事も見られますが、片柳小においては、みんな横で繋がっているとの認識でこのような構図にしました。
- 組織図案に「会計監査」がないとのご指摘を受けて加えようとしたのですが、『監査』を提案させていただきます。単純に、文字数が少ない方が枠に収まる・・・という理屈です。他と同じように『保護者1名以上』にしたいと思いました。理由は、監査対象の帳簿が複数ある為です。
- 監査、幹事、広報、成人は役員の立候補がなければ当年度の事業は無くなります。会長、副会長、会計、校外、学校応援は必須となるので、この4役が謝金対象で良いのではないかという話がありましたが、令和7年度は謝金ありきではなく、役得で進めたい。学校応援事業は学校主催の活動なので、ボランティアが集まらなくても実施されます。
- 組織図に記載されていた『応援団』を『学校応援』に変更しました。これは『学校応援事業』と『ふれあい応援団の団長としての活動』が大きく異なり、事業内容がわかり辛いと感じた為、『学校応援事業』に限定しました。ふれあい応援団としての活動は、団長自身が学校運営協議会と、地域安全会議に出席している状態となっています。PTAとしても、団長の募集をかけます。
- 総務委員は運営委員と改名し、10月に立候補者募集をかけます。

5 事後の予定

- (1) 臨時総会資料の共有及び微調整
- (2) 12月3日(火) 臨時総会
- (3) 2月7日(金) 運営委員会